

平成 32 年度

事業者番号

0330

事業所番号

033001

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
C	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	川口市立医療センター		
事業所所在地	市区町村	川口市	
	字・地番	西新井宿180	
産業分類名(中分類)	医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	事業内容 従業員数等	地域の中核病院として、埼玉県南部の医療圏を補っている。 従業員数:800名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第2計画期間の削減目標

計画期間		27	年度	～	31	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量(9,342t-CO <sub>2</sub> )に比べ、平成27～31年度平均で年15%削減する				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)	39,703	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第1区分-(1)		
	削減目標量 (計画期間合計)	7,007	t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第3計画期間の削減目標

計画期間		32	年度	～	36	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量(9,342t-CO <sub>2</sub> )に比べ、令和2～6年度平均で年22%削減する。(必要に応じて排出量取引を活用する)				
	その他ガス					

### 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

#### (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
	3,874	3,921	3,862	3,909	3,847

#### (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算(t-CO<sub>2</sub>)

		計画期間				
		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		7,590	7,686	7,597	7,675	7,544
その他 ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		7,590	7,686	7,597	7,675	7,544

#### (3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算(t-CO<sub>2</sub>/指標)

				計画期間				
				27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位				0.1451	0.1470	0.1453	0.1468	0.1442
活動規模の指標	○	床面積	m <sup>2</sup>	52,299	52,299	52,299	52,299	52,299

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	9,342	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量検証	基準年度検証実施済	

(2) 基準排出量の変更

変更年度		変更量	
変更年度		変更量	
変更年度		変更量	

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分-(1)
----------	----------

(4) 削減計画期間

27	年度から	31	年度まで
----	------	----	------

(5) 年度ごとの状況

		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	削減期間 合計	
基準 排 出 量 等	基準排出量(A)	9,342	9,342	9,342	9,342	9,342	46,710	
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	15.0%	15.0%	15.0%	15.0%	15.0%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							39,703
	排出削減目標量 (D = Σ (A×B))							7,007
実績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	7,590	7,686	7,597	7,675	7,544	38,092	
	排出削減量 (F = A - E)	1,752	1,656	1,745	1,667	1,798	8,618	
特例	高効率設備の 算定量(※)							

※ 算定を希望する場合のみ記入する。別途、算定資料(任意様式)を添付すること。

(6) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

平成31年度は、都市ガス使用量の削減のため、更新した貫流ボイラーの季節別時間帯別負荷に対応した運転を実施、かつ蒸気吸収式冷凍機の運転を軽減するために、氷蓄熱ユニットのチラー運転を増加した。  
さらに、全台インバータを採用した温水ポンプの運転を適宜チューニングし、大幅な電力量の削減を実現できた。  
しかしながら、感染症への対応から空調・換気運転の増加が見られた。

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対策の区分			対策概要	実施年度	推計削減量(t) (1年度当たり)
	区分番号	区分名称				
		大区分	中区分			
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	省エネ啓発活動を継続する (第3計画期間継続)	H26以前	10
2	120100	熱源設備・熱搬送設備	12_燃焼設備の管理	炉筒煙管ボイラーより貫流ボイラーに更新する	H28年度	50
3	120200	熱源設備・熱搬送設備	12_冷凍機の効率管理	氷蓄熱ユニットを高効率なモジュールチラー等に更新する	H32以降	200
4	120200	熱源設備・熱搬送設備	12_冷凍機の効率管理	吸収式冷凍機を高効率冷凍機に更新する	H32以降	250
5	120300	熱源設備・熱搬送設備	12_運転管理及び効率管理	季節別時間帯別の負荷に応じたボイラー運転を実施する(第3計画期間継続)	H26以前	100
6	120300	熱源設備・熱搬送設備	12_運転管理及び効率管理	季節別時間帯別の負荷に応じた冷凍機運転を実施する(第3計画期間継続)	H26以前	150
7	120500	熱源設備・熱搬送設備	12_熱搬送設備の運転管理	温水ポンプの全台インバータ導入に伴い、可変水量制御による効率化を図る	H30年度	200
8	120500	熱源設備・熱搬送設備	12_熱搬送設備の運転管理	冷水二次ポンプの全台インバータ導入に伴い、可変水量制御による効率化を図る	H32以降	150
9	120700	熱源設備・熱搬送設備	12_蒸気漏えい及び保温の管理	主要な蒸気配管とバルブの保温を強化	H31年度	20
10	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	温湿度設定の適正化を図り、除湿再熱運転の最少化と外気導入の適正化を継続推進する(第3計画期間継続)	H26以前	200
11	130200	空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	空調機のオーバーホールや更新、FCUからパッケージエアコン入れ替えによる効率化	H30年度	180
12	150100	受変電設備、照明設備、電気設備	15_受変電設備の管理	高圧トランスを順次トップランナー機器に更新する	H31年度	60
13	150100	受変電設備、照明設備、電気設備	15_受変電設備の管理	デマンド管理を徹底する(第3計画期間継続)	H26以前	20
14	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	室用途や利用時間帯の適正照度を保ちながら、間引きやLED照明に更新などを実施する(第3計画期間継続)	H26以前	400
15	160200	昇降機、建物	16_建物の省エネルギー	天窓等から侵入する外光の軽減を図る(第3計画期間継続)	H26以前	10

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

